

第4回京丹波町総合計画審議会（産業建設部会）議事録要旨

令和7年2月19日（火） 午前10時40分～11時45分

開催場所：京丹波町役場 防災会議室

＜出席委員＞安谷会長、竹内委員、山田委員、嵐委員、杉浦委員

4. 部会による協議

（事務局より趣旨説明）

【意見交換】

事務局：（総合計画概要版政策パッケージを説明）各プロジェクトについて、分野ごとに意見をいただく。また、実施計画の内容についても同様にいただきたい。

委員：交流人口を増やすための取り組みを進めているが、毎年、同じ計画では、ツアーも実施できないので、改善していきたい。旅行業の資格がとれないため、理想と現実のギャップがあり、実行していくための具体例を作っていく必要があると考える。

事務局：町では、栗関連のクラウドファンディング実施しており、ホテルへ野菜も含めてプロモーションし、ツアーの造成も進めている。また、森の京都は、旅行業を持っているので、共同企画はどうか。

委員：森の京都へ企画の投げかけをしていく。

事務局：町も負担金を支出しているので、一緒に進めていただきたい。

会長：森の京都のイベントでは、年2回食事会を開催しており、鮎を全面に売り出た企画もある。また、京都市にはインバウンドが多い、滞在期間が最低でも2週間程度、田舎の良さをもっと伝えていったらよい。ツアーの造成を含め、観光面で改善していきたい。

事務局：タウンプロモーション事業の中でツアー造成など、山を活用した取り組みも進め、養生のイベントを鍼灸大学と連携して進めていく予定。

会長：現在の栗の作付け状況はどうか。

事務局：現状の生産量は35 t、将来的には90 tを目指している。前年度から2ha増加し、187haを目標としている。植えてから3年程度で収穫開始し、ピーク7年目頃となり、順調に進んでいる。

委員：最盛期は、どれくらいの収量があったか。

事務局：最盛期は200 t程度の生産量があった。

委員：放置されている栗林の管理支援があれば、色々な面で助かると思う。

事務局：生産に関する土地利用計画は、令和3年度末に作成し、農業委員会を通して土地売買を進めている。また、協力隊も活用して管理支援など将来的には考えてい

く。

会長：ある程度の年収が得られるような集約化や付加価値を高めていく必要がある。

事務局：栗の加工は現状がないので、補助事業を実施し、10件程の要望があり、機材導入により振興している。須知高校とホテルの連携の新商品をつくり、道の駅和で販売していく予定。

委員：富田にドッグハウスが建設されている。町内のドッグランが少ないので、ニーズはある。犬といえることは健康に繋がり、ウェルビーイングになると思う。自然運動公園の中にあれば、憩いの場になるのではと思うし、犬を連れている人が新型コロナの影響で増えており、近年はドッグランが増えてきている。

委員：地域おこし協力隊の活動は、自治体の課題解決に繋がるものなのか。

事務局：地域おこし協力隊は、プロモーションや栗振興、農業研修などの町の課題としている事業に対して人材を募集しており、近年では林業関連で定着しているケースが多く、協力隊を卒業しても活躍されている。

委員：昨年11月まで協力隊の鈴木さんは、現在、升谷の森林のバッファゾーンをつくる作業しているのを聞いたことがある。

委員：人材不足もあり、ヘルプ的な対応を求めていくことに繋がればよいと思う。

事務局：基本的には、協力隊退任後の3年後の活動につながるものが必要になると考えている。